



市長 田中 甲

千葉県 市川市



誰もが個々の能力を生かしながら
健やかに、生き生きと暮らせる「健康
都市いちかわ」を目指しています

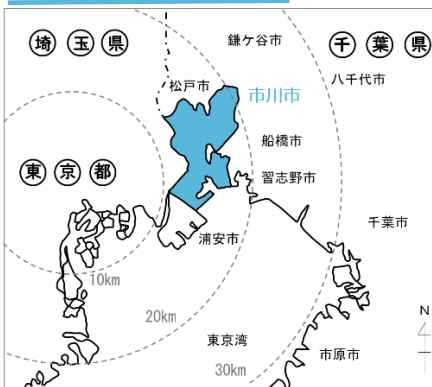
【データ】 令和6年3月31日現在

- ・人口:494,871人
- ・世帯数:258,398世帯
- ・面積:56,390km²
- ・市の花:バラ
- ・市の木:クロマツ
- ・特産物:梨、海苔

【連絡先】

担当:企画部健康都市推進課
電話:047-712-8642

市川市の紹介



市川市は、千葉県の西部、江戸川を隔てて東京都と対し、都心から20キロメートルの圏内に位置し、文教・住宅都市として発展してきました。都心部と県内各地域を結ぶ広域交通網の集中する位置にあります。

北部には梨栽培などの農業が盛んで緑も多く、また学園も多い文教・住宅都市です。南部は、東京湾に臨み京葉工業地帯の一翼を担っているとともに、都会的な住宅都市が形成されています。

「健康寿命日本一」に向けた行政の取り組み

健康に関する情報の発信・普及啓発

市川市では、健康寿命日本一のまちを目指し、市民の更なる健康増進を図るため、健康寿命延伸事業に取り組んでいます。

市民の健康意識の向上とより良い生活習慣の実践に向けた行動変容を促すことを目的として開催する「健康講演会」は、市民の生活習慣や健康に関わるテーマについて著名な講師を招聘し、市長との対談企画など市民目線でわかりやすい情報の発信、普及啓発を目指しています。



健康を振り返る機会の創出

自身の健康データを測定することで、健康を意識できる環境を整備するため、市内20箇所に体組成計および血圧計を設置しています。設置場所は市内公民館や行政窓口など、市民が気軽に立ち寄ることのできる施設とすることで、健康意識を高めるとともに、健康的な生活習慣に取り組みきっかけづくりにつながるものと考えています。



■健康行動を継続させるためのきっかけづくり

市民が健康的な生活習慣を継続することができるよう支援することを目的として、健康ポイント事業「Aruco(あるこ)」を実施しています。

健康ポイント「Aruco」は、「歩くこと」や「測ること」といった健康行動に対し、それぞれポイントを付与するもので、貯めたポイントは、デジタル地域通貨「ICHICO」へ交換することができます。



【健康ポイント Aruco】



【デジタル地域通貨 ICHICO】

デジタル地域通貨「ICHICO」とは、地域経済と市民活動の活性を目指すデジタル地域通貨で、スマートフォン専用アプリ等を利用し、1ICHICO=1円として、市内の加盟店で使えるキャッシュレス決済です。「ICHICO」と「Aruco」を結びつけることで、これまで健康に関心の低かった方々に対しても、健康づくりを始めるきっかけとなるだけでなく、健康づくりの継続化が図られることに加え、地域経済の活性化にもつながることを期待しています。

■高齢者に向けた支援(ゴールドシニア事業)

市川市では75歳以上の方を尊敬の念や、ますます輝いていただきたいという思いを込めて「ゴールドシニア」と命名し、コロナ禍により外出機会が減少した高齢者の外出を促進することで、健康寿命の延伸を図ることを目的に、市内の公共交通機関の運賃の一部補助(チケットの支給)を行っています。

「チケット75」は、市内発着の主要な路線バス、コミュニティバス、指定事業者のタクシーで利用することができます。利用者は、バスは100円、タクシーは乗車運賃から500円を差し引いた額を自己負担することで利用できます。



III 「健康都市推進」に向けた市民との取り組み

健康都市に関する情報発信や事業への積極的な参加協力等の役割を担う「健康都市推進員」とともに、市民を対象とした参加型イベント「健康フェスタ」を開催しています。



令和5年度は食生活に関する講演に加え、体組成測定や握力測定、血管年齢測定、ベジチェックなどの健康測定会を実施しました。市民の方々が自分の健康について知り、学ぶことができる機会となり、参加された方からも非常に満足度の高いイベントとなりました。今後も、庁内関係部署および関係団体等と連携し、「健康寿命日本一」に向けた取り組みを進めていきます。